

---

# アムロ・レイの行方 In IS

こーりん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

アムロ・レイの行方 I n I S

### 【Nコード】

N 2 4 4 8 W

### 【作者名】

こーりん

### 【あらすじ】

アムロ・レイがシャア・アズナブルとの戦いで行方不明になりすぐのこと、アムロのみが異空間に入り込みインフィニット・ストラトスISの世界へ。

## 第00話 行方（前書き）

ISとアムロがないので書きます！！正直こっちは適当に行きます！メインのほうの小説も全然書けてないのでものすごく遅くなると思います、適当に見てくいただいたらいいと思ってます。

あと私自身あまり学がないのでアムロが変な感じなるかもしれない、そういうのがいやな方はお戻りください、もう何でもいいわって人は見てくれると嬉しいです！

さらに！！ご都合主義！自己解釈！原作崩壊！さらにはキャラ崩壊もするかもしれないです！！本当に気をつけてください！！

## 第00話 行方

カチツカチツ・・・

「動かないか・・・」

彼、『アムロ・レイ』は『シャア・アズナブル』との戦いの後、宇宙空間を半壊したVガンダムの中で漂っていた。

「このまま宇宙を漂流し、助けを待つしかないのか、いや助けもないな、あの戦いの後だ助ける余裕もないだろう死ぬのを待つしかないか」

するとアムロの足元に黒い渦のようなものが発生した。

「なっ・・・こんなところにブラックホールだと・・・!!?」

その瞬間アムロは異空間へと飛ばされた・・・。

「ここは・・・」

—アムロ—

「ララアかつ!？」

—行つてアムロ—

「何所へ行けと言っんだ!」

—アムロ—

「ララア!ララアアアア!!!」

「はっ……!？」

目が覚めると俺は何処かの一室のベットで寝かされていた、どうやら医療室のようだった。

「目が覚めたか」

そこには見知らぬスーツ姿の女性がいた。

「お前は誰だ？」

「……」

「どうした？」

「……アムロ・レイだ」

「そうか、ではコレはお前のか？」

そう言っただけで彼女が見せてきたものは俺のエンブレム型のネックレスだった。

なんだアレは、あんなもの持っていたか？

「多分、俺のだ」

「多分か……自分の物かどうかわからんのか？」

「俺はそんなものを持っていた記憶はないがそのネックレスの形は俺のエンブレムだ」

「『俺のエンブレム』、とはどう言う事だ？」

「俺はMSのパイロットだ」

「?……MSとはなんだ？」

「(MSを知らない……?どう言う事だ……)」

「説明してもらおうか、総てを……」

アムロは話した、1年戦争からシャアのアクシズ落とし、MSやその他の兵器の事総てを。

それを聞いた彼女は驚きを隠せずにいた、自分の知らない歴史や兵器。

すると彼女もまた話し始める『<sup>インフイニット・ストラトス</sup>IS』について。

「まるで違うな、俺のいた世界と・・・」

「そしてコレを解析した結果コレがISだとわかった」

「待機状態・・・と言っやつか」

「物分りが早くて助かる、ほら」

そう言いながら彼女はISを俺の方へと投げる。

「そっついえばまだ名乗ってなかったな、私は織斑千冬<sup>おりむらちふゆ</sup>、このIS学園の教師をしている、そしてお前は明日からこの生徒だ」

「どういうことだ？」

突然明日からIS学園の生徒だ、など言われて理解できるわけがない、彼女はと言っつもりなんだ。

「ISを所持しているものを野放しにするわけにもいかんのでな、まあ上には適当に言っておく安心しろ」

「兵器を持つているものがその辺をうろつくのも危ない、そういうわけか、ならやつかいになろう、IS学園、よろしく頼む織斑千冬」  
「織斑先生だ、ふっ」

俺たちは握手を交わす、明日からここIS学園での新しい生活が始まる。

シヤア貴様との決着はもう付けることはできないのかもな・・・。

第00話 終

## 第00話 行方（後書き）

例のごとくダメですね。

こんなんで勘弁してください・・・（ω・;）

感想とか「お前ふざけんなよ、おい！」とかあったら遠慮なく言うてください、私のガラスのハートで受け止めます、崩れてもボンド引っ付けるので大丈夫です。

それでは読んでくださりありがとうございました！ゝ（。・）ノ

## 第01話 入試戦（前書き）

更新遅くてごめんなさい（；ω；）才三三三

## 第01話 入試戦

「起きろアムロ！」

俺は朝、配備された学生寮の一室で寝ていると織斑先生がお越しに  
来た、そういえば今日はISの試験運転兼模擬戦をすと聞かされて  
いたな。

先日の疲れのせいか自分で起きれなくて織斑先生に起こされに来る  
とは、まったく情けない限りだ。

「おはよう、織斑先生」

「なにがおはようだ、約束の時間を1時間も過ぎてるぞ」

「それはすまなかったな、すぐにしたくをしよう」

「まったく、先が思いやられるな・・・はぁ・・・」

ここは第3アリーナ、先ほども言ったが試験運転と模擬戦をするた  
めにココに来たわけだが、まだ対戦相手が来ていない、今はまだ授  
業中らしいから待っているそうだ。  
待っている間に試験運転をするらしい。

「お待ちせしてすみません」

誰か着たようだ、金髪の美しい少女だな、どうやら日本人ではない  
ようだが。

「来たか、ではアムロあいつと模擬戦をしてもらう」

「あなたがアムロ・レイさんですわね、わたくしはセシリア・オル  
コット、セシリアでよろしくてよ！」

「ああ、よろしく頼む」

ん？あそこの観客席に2人ほど生徒がいるな、見物か何かか？

「では2人ともISを起動しろ」

織斑先生はモニタールームまで移動してアリーナ内に放送する。

俺たちはISを起動させ空中で待機する。

「アムロさんのISは一夏さんのISとすこしにてますはね」

「一夏？」

「一夏さんを知らないんですの？織斑一夏・あの織斑千冬先生の弟にして世界で始めてISを起動させた男ですわ、あそこの観客席にいるのがそうですわ」

「そうなのか」

「ニユースなどは見ませんか？」

「色々事情があつてな」

「そうですか」

そこでアリーナに放送がかかる。

「それではセシリア・オルコット対アムロ・レイの模擬戦を開始します、はじめ！」

「では最初から本気でいけといわれているので本気でいきますわよ！！」

「ああ、来い」

どうやらセシリアのIS、ブルーティアーズは長距離戦得意とISのようだな、俺の世界にもあったファンネルにも似た兵器【ブルーティアーズ】、長距離レーザーライフル【スターライトmk?】、まずは様子見だ。

「さあ、踊りなさい。わたくし、セシリア・オルコットとブツ・ティアーズの奏でる円舞曲<sup>ワルツ</sup>で！」

死角からのBT兵器での攻撃、だがそんなものシャアのファンネルに比べればどうと言うことはない。

「見える！」

「なっ、総て避けてっ!？」

「今度はこちらからだ！行け！ファンネル!!」

俺は一つだけファンネルを発射させ、BT兵器の相手をさせ、俺自身はセシリアを狙う。

「あなたもBT兵器を!？」

「戦闘中に余所見か？」

ビームライフルを装備しセシリアに接近するがセシリアも負けじとスターライトmk?で反撃してくる。

セシリアはどうやらBT兵器かスターライトmk?のどちらか一方しか動かせないようだな、ならばファンネル一機だけで十分だな。

「ブルーティアーズが!?さらにビーム兵器まで!?あなた一体何者ですの!！」

「さあな、そこだ!！」

隙をみせたセシリアを俺はビームライフルで撃ち抜く、だかまだ稼動できるみたいだな、一気にきめる!

「かかりましたわね!！」

ビームサーベルを持ち一気にきめようと接近した瞬間セシリアから【プレッシャー】を感じた。

「甘いぞ!！」

プレッシャーを感じた瞬間全速力で後退しビームライフルで牽制する。

「まさか気づきましたの!?5機目と6期目のブルーティアーズに!？」

「残念だがこれできめさしてもらおう!行け!フィンファンネル!！」  
ファンネルを総て射出し一気にセシリアを攻める。

「なっ、なんですのこの動きは!？」

セシリアはどうやらファンネルの動きについて行けずにシールドエネルギーが尽きてISが解除された。

「残念だったなセシリア」

「しかしあいつは一体何なのだ？」

アリーナ中央で織斑先生を待っていると2人の生徒が近寄ってきた。

「ああ、一夏さんに筈さん」

「彼が？」

「はい、織斑一夏さん、そして彼女はISを作った篠ノ之束博士の妹、篠ノ之箒さんですわ」

「ほお・・・」

「あんたが今度転入してくるアムロ・レイだろ、織斑一夏だよろしく、一夏でいいぜ」

「私は篠ノ之箒よろしく頼む、私も箒でいいぞ」

2人から手を差し伸べられ、俺も手を出し握手をした。

「アムロ・レイだよろしく、なら俺のこともアムロと読んでくれ」

---

その日の夜、俺は疲れが生じてベットで突っ伏していた。

「この世界に来て慣れていないのか疲れる・・・それに・・・」

体がああ頃の物だ、どうして戻った、まったく謎だらけだな、まあ今は慣れるしかないか、この体の年齢だとするとシャアと初めて・・・。

そして俺の意識はそこで途切れた。

## 第01話 終

## 第01話 入試戦（後書き）

どうでしたか？多分ていうか絶対変なはず、自分でも変だと思いましたが、本間にダメダメですねすみません（´ω、；）

アムロは一夏とかと同じ年齢です、ご了承ください、ホント最初に言っておけばよかったですね、すみません（；Д；、）

では今回も読んでくださりありがとうございました！、（。。（ノ

## 設定ばいの(前書き)

こんなんであえですかね？

W i k i 先生からひっぱて来たのでほとんどが通常のヾガンダムと一緒にがちよいちよい変わってますのでめんどくさいけど読んでね(´ω´)

## 設定ばいの

アムロ・レイ

『逆襲のシャア』後のアムロですが、ISの世界にきたことにより何らかの力により一夏たちと同じ年齢まで縮みました、見た目は『機動戦士ガンダム』のアムロです、見た目は初期アムロだけどちゃんとNTしてるアムロです。

Vガンダム

全身装甲にしようか迷った挙句一夏たちの一般ISと同じ手足に付いてる感じのヤツです。

装備

60mmバルカン砲

通常は実弾ですがレーザーバルカンにしたいと思います。

普通なら頭部ですが全身装甲じゃないので『機動戦士ガンダム00』の『ガンダムエクシア』のように腕に付いている。

ビームライフル

専用の長砲身大型ビームライフルで最大出力なら戦艦の主砲レベルの威力があるが強力すぎるので出力を55%ほどカットして使っている。

フィン・ファンネル

板状の収納形態で左背面に6基装備されており、攻撃時には折れ曲がってコの字型に変形する。

ファンネル自体にジェネレーター内蔵式のためISのエネルギーを使わずに稼動可能。

さらにこちらも威力が高いためエネルギーのことを考えて出力を60%カット。

さらにさらに、オールレンジ攻撃兵器としてだけでなく、ファンネルを頂点として対ビーム・バリアー（エフィールド）を張ることに、防御シールドを展開する事が可能。

## ニューハイパーバズーカ

地球連邦軍製MS用の武装としては一般的だが、νガンダムのは有効射程距離の向上、より破壊効率の高い弾頭への変更などの改良が施されている。

背面バックパックにマウントした状態や、本体から切り離した状態でも、通信用ワイヤーを介した指令により射撃可能、でもIS戦において使うことはほとんどないに等しい。

## シールド

基本的にほとんどの攻撃に耐えることのできる強度を誇るシールド。（基本的攻撃には耐えられるが押し負けはする）

シールド表面に描かれた一角獣をモチーフとしたマーキングはアムロのエンブレムである。

## ビームサーベル

背中右側に装備されたメインのサーベル（カスタム・ビームサーベル）と、左腕シールドマウント基部に装備された予備のサーベルが存在する。

## ダミーとトリモチ

ダミーとトリモチはむしかしたら出ないかもしれません。

## 設定ばいの（後書き）

まあこんなんです、ワンオフなんて無い！！

では！！（、ω、）ノシ

## 第02話 授業（前書き）

スーパー短いです。

？「何故だ？」

あ、あなたは！？

マリーダ「どうした？質問に答えろ」

いや、別に「内容うかばねえ、まあいつか」とか考えてませんか  
らー！！絶対考えてませんから！！

マリーダ「そうか」ジー

えとえと・・・本編どうぞ！！ゝ（。・ゝ）ノ

## 第02話 授業

午前は模擬戦。（前話のセシリアとの戦い）

午後は授業。

まあ、学校なんてこんなもんか。

俺の席は窓際の一番後ろ、なんと言つか、ものすごく居眠りがしたくなる席だ。

？「……………ん！」

折角また学生になったんだ、戻れるかはわからないが、向こうに戻るまではこのひと時を楽しもうじゃないか。

？「アムr……………ん！！！」

『IS』、コレは確かに危険だ、だが現状維持は出来る、俺が前いた世界のようなことにはならないだろう、『戦争』、この世界ではもう一步手前まで来ている、何故戦争が起きないのか不思議なくらいだ、だが俺はこのままこのせいで戦争が起きないことを祈ると思う。

山田「アム口君！！！」

殺気！？

ブウォン！！

アムロ「何をする、織斑先生」

千冬「『何をする』、じゃないだろ、授業中だ、教師の話はちゃんと聞け、あと」

バシィィン！！

アムロ「ぐおっ！？」

千冬「避けるな」

織斑千冬・・・本当にただの人間か疑問に思えてくる・・・・・・。

その後も授業は続きその日1日は終わりを告げた。

第02話 終

## 第02話 授業（後書き）

ね？

マリィダ「『ね？』、じゃないだろ」

・・・・はい、すみませんでした、反省しましたからファンネルで困むのやめてもらえませんか・・・〓〓；

マリィダ「次はちゃんとできるんだな？」

・・・・多分

マリィダ「はあ、まあこんなヤツだが大目に見てやってくれ」ノシ

本間すみませんでした・・・m（――）m

かゝらのっ！！

マリィダさんが帰ったからここからは私ぼっち一人がお送りいたします！

！いや別に泣いてねえしww

と、言うわけで本編にマリィダさん出していいですか？

理由1：マリィダさんが好きだから

理由2：最近マリィダさんが熱い

理由3：マリィダさんだから

こんだけ理由があれば出していいよね！！（正直超絶迷ってます）

まあそんな感じです、今回も読んでくださりまことにありがとうございます！

マリーダさんの件については感想とかで言ってくれると嬉しかったです。

では！" "ノシ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2448w/>

---

アムロ・レイの行方 In IS

2011年11月26日17時20分発行